

令和2年9月18日

## 【薬師寺の瓦 「母校」へ帰る】



長野縣南安曇郡 豊科高等学校  
昭和26年 と刻まれています

平成21年、奈良の薬師寺では110年ぶりの国宝三重塔（東塔）解体修復が始まりましたが、工事に伴い長野県内の小・中・高校の校名が刻まれた360枚余りの屋根瓦が発見されました。

事の発端は遡ること70年前の昭和25年、奈良県国宝保存連盟から全国に向けて、「国宝保存学徒募金」の依頼が発出されました。これを受けて本県では、信濃教育会の仲介により小・中・高の各校で自主的募金活動が行われました。これらの浄財により、法隆寺、薬師寺、唐招提寺などの保存修復が行われたということです。

そして平成21年からの解体修復に際しては、再使用されない120枚余りの瓦が、刻まれた校名の学校へ「里帰り」することとなりました。（平成29年）

以上の流れについては、当時の報道を記憶しておられる方も多いと思います。

今年、薬師寺の解体修復は最終段階となりましたが、再使用するために保存されていた校名入りの瓦のうち、屋根の反りに合わず使われない瓦が57枚あったそうです。写真の本校校名入りの瓦も、そのうちの1枚でした。

そこで、再び信濃教育会のご尽力により、瓦は「薬師寺東塔『縁（えにし）の瓦』として、本日豊科高校に里帰りを果たしました。

平成21年までは、実際に薬師寺東塔の屋根を守っていた瓦。そして形状さえ合えば、再び東塔の屋根に置かれていたはずの瓦です。戦後間もなくの日本の世相や、本校の歴史を伝える貴重な財産として、生徒、職員、関係の皆様にも見ていただきながら、大切に保管していきたいと思えます。

このような立派な箱に収めて  
届けていただきました

